



【韓国】 総合指数は週間で4.2%高と4週ぶり大幅反発、今週は楽観ムード優勢か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で4.2%高と4週ぶりに大幅反発。前週の6日から13日まで6営業日続伸となり、13日は終値ベースで今年5月7日以来、およそ7カ月ぶりの高値をつけた。週序盤に北朝鮮情勢を巡る緊張感が漂ったものの、半導体などハイテク需要の回復期待や米国の低金利政策が続くとの思惑を受けた資金流入期待から買いが先行。終盤には米中貿易協議を巡り、「第1段階」の合意や15日に予定されていた米国の対中追加関税の発動回避といったニュースが伝わり、投資家のリスクオン姿勢が強まった。今週は堅調な値動きか。年末モードに入り週後半にかけては市場参加者の減少も予想されるが、海外の大型イベントを通過し、楽観ムードが優勢になりそうだ。国内では20日に11月の生産者物価指数が発表される予定。

▼指数チャート



【ロシア】 RTS 指数は3.7%高と大幅続伸、今週は利益確定売りが上値を抑えるか

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で3.7%高と大幅続伸。原油高や米中通商合意への期待、ロシア中央銀行の利下げ見通しを背景に週後半に大幅高となり、指数は6年2カ月ぶりの高値で週の取引を終えた。週前半は上下にもみ合ったが、米中通商協議が進展し、米国による対中制裁関税第4弾の発動が見送られる公算が大きくなったことや原油高、ロシア中銀の利下げ観測を背景にRTS 株価指数は12日に前日比で2.3%高と大きく上昇。政策金利が0.25%引き下げられた13日も指数は0.3%高と3日続伸し、2013年10月以来の高値水準となる1501.42ドルで引けている。個別銘柄では石油のスルグトネフテガス(9.6%高)、非鉄金属のMMCノリスクニッケル(7.9%高)、金融のズベルバンク(2.6%高)などの上昇が指数を押し上げた。

▼指数チャート



【ベトナム】 ベトナム指数は0.3%高と5週ぶり反発、今週も米緩和長期化が支援

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.3%高と5週ぶりに反発。米中通商協議の進展でリスク回避が和らぐ中、米国の緩和的金融政策の長期化見通しを背景に新興国からの資金流出懸念の後退が支援となった。米国の対中制裁関税第4弾の発動期限を15日に控え、週前半は下落する場面もあったが、週後半は米中が「第1段階」の合意に至り、対中関税発動が見送られる見通しが強まったほか、FRBが2020年まで低金利政策を続けると示唆したことで新興国からの資金流出懸念が後退。VN 指数はもみ合いながらも週間ベースで小幅に反発している。個別銘柄では、ベトナム投資開発銀行(5.7%高)、ベトコムバンク(4.1%高)、ピナミルク(1.5%高)などの上昇が指数を押し上げた。今週は米国の低金利政策の長期化見通しが引き続き支援となるか。

▼指数チャート



【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.2%高、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.2%高と続伸。週末の反発が指数を支えた。週初の 9 日は、前週末の NY ダウが好調な 11 月の雇用統計を受けて大幅に上昇した流れで、場中に一時、6200 ポイントを回復し、終値で 3 営業日続伸。ただ、勢いは続かず、10 日に米中貿易交渉の行き詰まりが報じられた影響で反落すると、12 日まで 3 日続落した。一方、13 日はトランプ米大統領が「第 1 段階の合意が間近」と投稿した効果で金融株を中心に買い戻され、反発して取引を終えている。今週は 16 日発表の 11 月の貿易統計に対する市場の反応が焦点。また、19 日には中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催する。

▼指数チャート



【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スレーツタイムズ指数は 0.6%高、週末に終値で 3200 ポイント回復

スレーツタイムズ指数は週間で 0.6%高と続伸。週半ばに上昇に転じ、週末には終値で節目の 3200 ポイントに到達した。週初の 9 日はコングロマリットのジャーディン・マセソンが指数下落を主導し、3 営業日ぶりに反落。10 日も売り優勢の展開が続いたが、11 日は 15 日に期限を迎える米国の対中追加関税の発動が回避される可能性が高まった効果で反発した。12 日は 7-9 月期の失業率が約 10 年ぶりの水準に悪化したほか、10 月の小売売上高が 9 カ月連続で前年割れしたものの、米中貿易交渉の進展期待で指数は上昇し、結局 13 日まで 3 日続伸している。今週は 17 日に 11 月の非石油地場輸出が発表される予定。

▼指数チャート



【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 1.0%高、今週は 11 月の貿易統計に期待

SET 指数は 4 日間の取引で 1.0%高と 5 週ぶりに反発。週後半の上昇が奏功した。週初の 9 日は前週末の NY ダウが大幅に上昇したものの、中国の 11 月の輸出が 4 カ月連続で前年割れした影響で 9 営業日続落。祝日を挟んだ 11 日も小幅に下落したが、12 日はエネルギー株が買われ、指数は終値で 11 営業日ぶりに反発した。13 日は米中貿易交渉と英国の EU 離脱問題の進展に対する期待感から買い優勢の展開となり、続伸して引けている。今週は 18 日に中央銀行が定例の金融政策決定会合を開催するほか、20 日には 11 月の貿易統計（通関ベース）が発表される予定。輸出額が前年同月の水準を上回れば好材料。

▼指数チャート

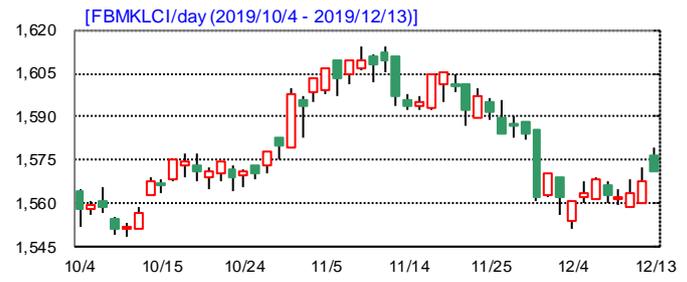


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.2%高、今週は米中合意の効果に期待

クアラルンプール総合指数は週間で 0.2%高と続伸。週前半の下落分を後半の上昇で補った。9-10 日は軟調な値動きだったが、11 日に終値で 3 日ぶりに反発すると、12 日は 10 月の鉱工業生産が市場予想から下振れしたものの、11 日に閉会した米 FOMC 後の声明で、今後 1 年間の政策金利の据え置きが示唆されたことが買い材料となり続伸した。13 日も好地合いの中、3 日続伸して取引を終えている。今週は 20 日に 11 月の CPI が発表される予定。前週末に米中両国が貿易交渉で第 1 段階の合意に達したほか、15 日に予定されていた米国による対中追加関税の発動が見送られたことは株式相場の追い風になりそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。